

# 鶴岡調査音声データベース 91-92 利用者マニュアル

前川喜久雄

## 1. 本データベースの内容

「鶴岡調査音声データベース 91-92」（以下では本 DB と呼ぶ）は、1991,92 両年度に山形県鶴岡市で実施された大規模な社会言語学的調査において収録された音声を編集して公開するものである。調査対象は、住民票から無作為に抽出された 15 歳から 69 歳までの鶴岡市民であり、92 年調査は、91 年調査の被験者の一部に対して再度調査を行ったものである。鶴岡市での社会言語学的調査については、国立国語研究所 (2007) が詳しく説明している。そこで「ランダムサンプリング調査」「場面差調査」と呼んでいる調査を本 DB では「91 年調査」「92 年調査」と呼んでいる。

ユーザーは本 DB 付属の検索ソフトを利用するか、もしくはやはり本 DB とともに配布する Excel 用マクロを利用することによって、任意の調査項目ないし任意の属性の話者に係る音声を再生することができる。

本 DB 付属の検索ツールを利用するためには、WindowsXP 以降の OS が稼働している PC と Java6 (jre1.6.0 以上) が必要である。Windows95, 98, ME, NT, 2000 での動作は保障しない。また Excel のシートおよびマクロは Excel2003 ないし 2007 での利用を想定している。

## 2. DVD の構成

本 DB は DVD 4 枚組で配布されている。4 枚の DVD を Vol.1, 2, 3, 4 と呼ぶ。各 DVD ともルートフォルダ直下に「wav」という名称のフォルダがある。「wav」フォルダの下には話者 ID に対応した多数のサブフォルダがあり、そのひとつひとつに多数の音声ファイルが保存されている。図 1 に Vol.1 のフォルダ構造を示す。

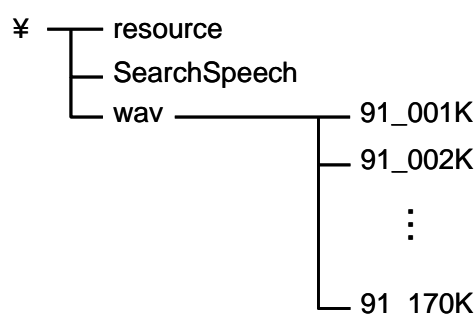


図 1 DVD Vol.1 のフォルダ構造

図 1 の場合「91\_001K」から「91\_170K」が話者 ID に対応したフォルダであり、例えば 91\_001K フォルダには 77 個の音声ファイルが置かれている。Vol.2 から Vol.4 の DVD には「resource」および「SearchSpeech」フォルダが存在せず、「wav」フォルダだけである。

Vol.1 の「resource」フォルダには playwav.exe というファイルが 1 個だけ置かれており、

「SearchSpeech」フォルダには 5 個のファイル (readme.txt, run.bat, SearchSpeech.jar, playList92K.dat, newZokusei92.dat) が保存されている。また、Vol.1 のルートフォルダには以下のファイルが保存されている。

tsuruoka91-92DB.pdf	本文書
tsuruoka91-92K.xls	Excel 用データシート
tsuruoka91-92K.dat	カンマ区切りテキストファイル
zokusei91-92.xls	Excel 用データシート (話者属性情報)
調査票 91.pdf	鶴岡調査面接調査票 (91 年調査)
調査票 92.pdf	鶴岡調査面接調査票 (92 年調査)
提示リスト 91.pdf	調査時に被験者に提示したリスト (91 年調査)
提示リスト 92.pdf	調査時に被験者に提示したリスト (92 年調査)

### 3. インストール

本 DB を Windows ベースの PC にインストールする方法を説明する。本 DB をインストールするためにはハードディスクに 20GB 以上の空領域が必要である。

初めにハードディスクに DB 格納用のフォルダを作成する。このフォルダはハードディスクのどこにあってもかまわないが、以下では D ドライブのルートに置かれた TsuruokaDB フォルダ(すなわち D:¥TsuruokaDB) がインストール先フォルダであると想定する。

マイコンピュータなどを利用してこのフォルダを作成したら、DVD Vol.1 を DVD ドライブにセットし、すべてのフォルダとファイルを D:¥TsuruokaDB の下にコピーする (この作業には PC の性能にもよるが 30 分程度の時間がかかる)。コピーが終了すると、D:¥TsuruokaDB¥wav というフォルダができているので、DVD Vol.2 から Vol.4 の wav フォルダの下にあるすべてのサブフォルダ (話者 ID に対応したフォルダ) を D:¥TsuruokaDB¥wav の直下にコピーする。以上の作業を終えると、図 2 に示すフォルダ構成ができあがる。

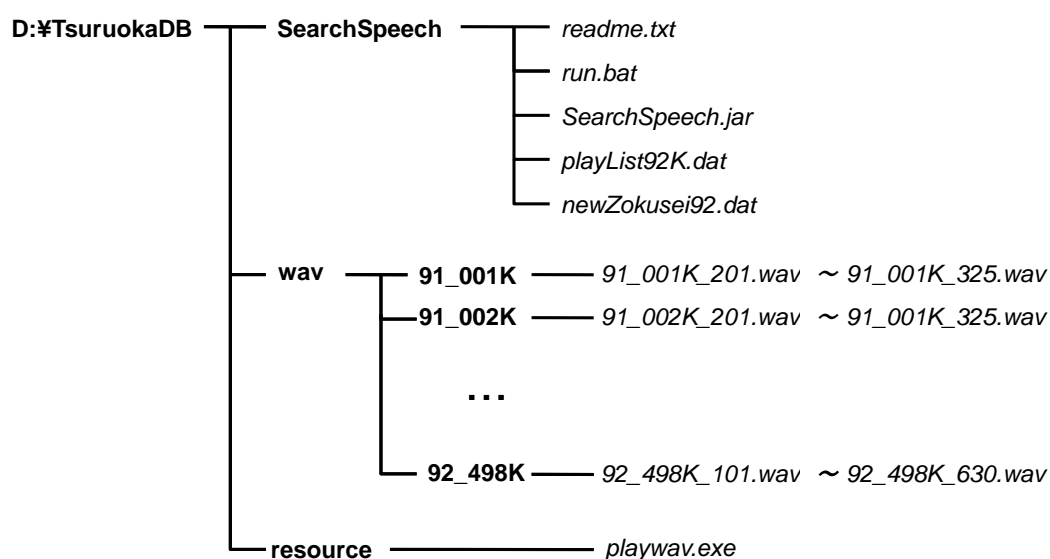


図 2 インストール作業終了時のハードディスクのフォルダ構成  
 ボールドで表記されているのはフォルダ名、イタリックで表記されているのはファイル名。

#### 4. 検索ツールの利用

インストールが終了したら、検索ツールを起動してみよう。D:\¥TsuruokaDB¥SearchSpeech フォルダにある run.bat をダブルクリックすると検索ツールが起動され、図3の検索条件指定ウィンドウが開く(ツールが起動されない場合、PC に Java がインストールされていないか、バージョンが古すぎる可能性がある。以下の URL で Java のバージョンを確認し、必要ならば最新版をインストールしてみてほしい。<http://www.java.com/ja/>)。このウィンドウに並んでいるのは検索の条件を指定するためのメニューやボタンである。動作検証のために以下の操作をおこなってみよう。

The screenshot shows the 'TsuruokaDialectSpeechSearch' window. It has several sections for specifying search conditions:

- データベース:** すべて (dropdown)
- 話者ID:** 001, 002, 003, 005, 006 (list)
- 調査員:** 1, 2, 3, 4, 5 (list)
- 聞き手の指定:** お医者さん, こども<弟・妹>, 国勢調査の人, 尊敬している先生, 小学校時代の先生 (list)
- QID:** 91K\_201:クチ, 91K\_201\_1:クチ, 91K\_201\_2:クチ, 91K\_202:髪, 91K\_202\_1:髪 (list)
- 語彙項目:** NTT, PTA, あの人はいつも遅れてくる, いっぱい, お入りください (list)
- 性別:** すべて (dropdown)
- 年齢:** 10代, 20代, 30代, 40代, 50代, 60代 (checkboxes)
- 出生地, 直前地, 生育地, 本籍地, 出身地(父), 出身地(母), 出身地(配偶者):** Each has checkboxes for 鶴岡市, 庄内地方(鶴岡を除く), 東北地方(庄内を除く), and その他.
- 音声ファイルへのパス設定:** (button)
- 検索, 選択解除:** (buttons)

図3 検索条件指定ウィンドウ

The screenshot shows the 'Result' window with a table of search results. The table has 8 columns: ResponseID, FileID, QID, 調査語彙, AID, IF, FF, and Qstart. There are 25 results listed.

ResponseID	FileID	QID	調査語彙	AID	IF	FF	Qstart
91_005K_201_	91_005K	91K_201	クチ			FU	1
91_034K_201_	91_034K	91K_201	クチ			FU	1
91_064K_201_	91_064K	91K_201	クチ		OL	FU	1
91_126K_201_	91_126K	91K_201	クチ			RI	1
91_129K_201_	91_129K	91K_201	クチ		PU		1
91_162K_201_A	91_162K	91K_201	クチ	A		FU	1
91_162K_201_B	91_162K	91K_201	クチ	B		FU	1
91_164K_201_A	91_164K	91K_201	クチ	A		FU	1
91_164K_201_B	91_164K	91K_201	クチ	B		FU	1
91_166K_201_	91_166K	91K_201	クチ				1
91_182K_201_	91_182K	91K_201	クチ		OL	RI	1
91_196K_201_	91_196K	91K_201	クチ				1
91_220K_201_	91_220K	91K_201	クチ				1
91_261K_201_A	91_261K	91K_201	クチ	A		FU	1
91_261K_201_B	91_261K	91K_201	クチ	B			1
91_265K_201_A	91_265K	91K_201	クチ	A			1
91_265K_201_B	91_265K	91K_201	クチ	B			1
91_316K_201_	91_316K	91K_201	クチ				1
91_351K_201_A	91_351K	91K_201	クチ	A	OL	OL	1

図4 検索結果表示ウィンドウ

#### 4. 1 パス設定

まず、検索結果として得られた音声を再生するために、音声ファイルが保存されているフォルダにパスが通っている必要がある。標準構成でインストールしてあれば何も指定する必要はないが、異なる構成とした場合は、画面左下にある「音声ファイルへのパス設定」ボタンを押し、本DBをインストールした先の「wav」フォルダを指定して「開く」ボタンを押す。

音声ファイルはどこに保存されていてもよいが、必ず図2の「wav」フォルダ以下と同じ階層構造を保持していなければならない。つまり「wav」フォルダの直下に「91\_001K」から「92\_498K」までが並置されている構造である。フォルダや音声ファイルの名称を変更すると音声再生できなくなる。

#### 4. 2 検索条件の指定

画面上にある「QID」（Questionnaire ID：調査票番号）で「91K\_201:クチ」をクリックする。次いで「性別」を「女性」に、「年齢」を「60代」に、「出生地」と「本籍地」をともに「鶴岡市」に指定して、画面下部の「検索」ボタンをクリックすると、図4に示した検索結果表示ウィンドウが開く。上記の条件では25件がヒットしているはずである。ヒット件数は検索結果表示ウィンドウの左上隅に表示されている。

#### 4. 3 音声の再生

ここで検索結果表示ウィンドウの任意の行をクリックすると、その行が反転表示される。その状態で検索結果表示窓のすぐ上にある「回答再生」ボタンをクリックすると「クチ」という回答の音声再生される。続いて「再生」ボタンをクリックすると、今度は調査者が質問を始めたところから、被験者が回答を終えるところまでの音声連続して再生される。

複数の行を連続して再生することもできる。複数の行をマウスでドラッグして反転表示させた状態で「回答再生」ボタンをクリックすると、選択された行の回答音声順次再生される。再生を中止したい場合は「再生停止」ボタンをクリックする。

#### 4. 4 検索結果の削除と保存

検索結果表示ウィンドウの「削除」ボタンは不要な検索結果を削除するために利用する。マウスなどの操作で選択された（反転表示状態にある）行が削除の対象となる。なお、削除されるのは検索結果であって音声ファイルではない。

また、検索結果表示ウィンドウの「保存」ボタンをクリックすると、表示されている検索結果を別ファイルに保存できる。保存形式はカンマ区切りファイル（.txt ファイルないし .csv ファイル）である。保存先のフォルダを指定し、ファイル名を入力して「保存」をクリックすると、入力したファイル名で検索結果が保存される。

#### 4. 5 検索条件の更新と結果の比較

検索条件の一部を修正してみる。検索条件指定ウィンドウの「性別」を「すべて」に変更して「検索」をクリックすると、今度は 50 件がヒットする。回答音声を再生してみると、女声だけでなく男声の回答も聞こえてくるはずである。検索条件指定ウィンドウの「選択解除」ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされるので、最初から新しい条件を指定できる。複数の検索結果を比較したい場合は、検索ツールを複数起動すればよい。

### 5. 回答の検索に利用できる属性

検索ツールで検索条件として利用できる属性には「データベース」「話者 ID」「調査員」「聞き手の指定」「QID」「語彙項目」「性別」「年齢」「出生地」「直前地」「生育地」「本籍地」「出身地（父）」「出身地（母）」「出身地（配偶者）」がある。

#### 5. 1 データベース

初期状態の「すべて」では 91 年調査と 92 年調査の両方を検索するが、「91K」を指定することで 91 年調査のみ、「92K」を指定することで 92 年調査のみをそれぞれ検索することが可能である。

#### 5. 2 話者 ID

本 DB の話者（被験者）を識別する ID である。001 から 500 までの値をとるが、数字は連続しておらず、話者の総数は 398 名である。本文書の付録 1 として、本 DB の話者 ID の一覧を示す。

#### 5. 3 調査員

鶴岡調査に参加した 28 名の調査員を識別するための ID であり、「1」から「28」までの数字をとる。ただし調査員「16」は調査に参加していないので、データにもこの数字は含まれていない。表 1 に調査員の属性を示す。調査員は全員日本語学の研究者である。

#### 5. 4 QID

質問の ID である。本 DB には調査表の全項目が収録されているわけではなく、話者の社会属性を調査している部分（フェースシート部分）が除外されているほか、「はい」「いいえ」での回答を要求している項目も除外している。

本 DB の対象となっている調査項目を表 2 に示した。項目の後に【絵】とある項目では調査時に絵を示している。同じく『ア』とある項目はアクセントを狙った項目である。91K\_244「もう歩けない」のように、調査項目が括弧つきで表記されている項目では、音声ではなく語彙の選択が調査の対象となっており、問題とされている語に下線が付されている。詳しくはファイル 調査票 91.pdf、調査票 92.pdf として保存されている調査票を参照のこと。また調査時に話者に提示した種々の絵は 提示リスト 91.pdf、提示リスト 92.pdf ファイルにそれぞれ保存されている。

表 1 調査者の属性情報

ID	性別	生年	備 考
1	男	1948	
2	男	1959	
3	男	1942	鶴岡市出身
4	男	1959	山形市出身
5	男	1942	
6	男	1955	弘前市出身
7	男	1952	
8	男	1949	
9	男	1962	
10	男	1940	
11	男	1958	
12	男	1957	
13	男	1955	
14	男	1948	
15	男	1953	
17	男	1963	
18	男	1946	
19	男	1955	山形市出身
20	男	1942	
21	男	1950	
22	男	1953	
23	男	1958	
24	男	1937	山形市出身
25	男	1956	
26	男	1948	
27	男	1954	
28	女	1967	

表 2 - 1 調査項目 (91 年調査)

QID	調査項目	QID	調査項目
91K_201	口 (クチ) 【絵】	91K_251	ボクシング 【絵】
91K_202	髭 (ヒゲ) 【絵】	91K_252	乗車拒否
91K_203	背中 (セナカ) 【絵】『ア』	91K_253	ミニスカート 【絵】
91K_204	汗 (アセ)	91K_261	「起きろ」
91K_205	蜂 (ハチ) 【絵】	91K_262	「わたくしたち」
91K_206	鳩 (ハト) 【絵】	91K_263	「見に行かないか」
91K_207	猫 (ネコ) 【絵】『ア』	91K_264	「行くから」
91K_208	蛇 (ヘビ) 【絵】	91K_265	「行くけれども」
91K_209	窓 (マド) 【絵】	91K_266	「強かったなあ」
91K_210	旗 (ハタ) 【絵】『ア』	91K_267	「勉強しないで困る」
91K_211	鈴 (スズ) 【絵】	91K_268	「もっと海が静かなら」
91K_212	帯 (オビ) 【絵】	91K_269	「先生が <u>あなたを</u> ほめていた」
91K_213	靴 (クツ) 【絵】	91K_270	(先生に)「そうです」
91K_214	柿 (カキ) 【絵】	91K_271	(先生に)「この絵はあなたが <u>書いたのか</u> 」
91K_215	松 (マツ) 【絵】	91K_301	胃 (イ) 【絵】
91K_216	西瓜 (スイカ) 【絵】	91K_302	絵 (エ) 【絵】
91K_217	火曜日 (カヨウビ)	91K_303	しみ
91K_218	百 (ヒャク) 【絵】	91K_304	鏡 (カガミ) 【絵】
91K_219	税務署 (ゼイムショ)	91K_305	障子 (ショウジ) 【絵】
91K_220	息 (イキ)	91K_306	「チケット」 【絵】
91K_221	駅 (エキ) 【絵】	91K_307	「電電公社」
91K_222	糸 (イト) 【絵】	91K_308	「PTA」
91K_223	煙突 (エントツ) 【絵】	91K_309	ジェット 【絵】
91K_224	知事 (チジ)	91K_310	フォーク 【絵】
91K_225	地図 (チズ) 【絵】	91K_311	フィルム 【絵】
91K_226	島 (シマ) 【絵】	91K_312	熊 (クマ) 【絵】『ア』
91K_227	墨 (スミ) 【絵】	91K_313	テレビ 【絵】『ア』
91K_228	烏 (カラス) 【絵】『ア』	91K_314	チャンネル『ア』
91K_229	辛子 (カラシ)	91K_315	アメリカ 【絵】『ア』
91K_230	狐 (キツネ) 【絵】	91K_316	「分りません」
91K_231	団扇 (ウチワ) 【絵】『ア』	91K_317	「朝寝をしたい」
91K_241	「あの人はいつも遅れてくる」	91K_318	「どこへ行くのか」
91K_242	「留守番」	91K_319	「学校へ行く」
91K_243	「いらっしゃい」	91K_320	「野菜の値段が <u>高</u> くなった」
91K_244	「もう歩けない」	91K_321	「大きい」 【絵】
91K_245	「アッ、 <u>驚いた</u> 」	91K_322	「かわいい」
91K_246	「はずかしい」	91K_323	「面白い」
91K_247	「くれる」	91K_324	「教える」
91K_248	氷柱 (ツララ) 【絵】	91K_325	「面白いテレビやっているから来てみろ」

表 2-2 調査項目 (92 年調査)

QID	調査項目	QID	調査項目
92K_101	西瓜 (スイカ) 【絵】	92K_404	「野菜の値段が高くなった」
92K_102	柿 (カキ) 【絵】	92K_405	「強かったなあ」
92K_103	烏 (カラス) 【絵】『ア』	92K_406	「食事をしていた」
92K_104	窓 (マド) 【絵】	92K_407	「壊れた」
92K_105	駅 (エキ) 【絵】	92K_408	「捨てる」
92K_106	税務署 (ゼイムショ)	92K_501	「お入りください」
92K_107	猫 (ネコ) 【絵】『ア』	92K_502	「幾ら」
92K_108	鈴 (スズ) 【絵】	92K_601	西瓜 (スイカ)
92K_109	アメリカ 【絵】『ア』	92K_602	柿 (カキ)
92K_110	髭 (ヒゲ) 【絵】	92K_603	烏 (カラス) 『ア』
92K_111	息 (イキ)	92K_604	窓 (マド)
92K_112	鏡 (カガミ) 【絵】	92K_605	駅 (エキ)
92K_113	N T T	92K_606	税務署 (ゼイムショ)
92K_114	知事 (チジ)	92K_607	猫 (ネコ) 『ア』
92K_115	テレビ 【絵】『ア』	92K_608	鈴 (スズ)
92K_116	チャンネル 『ア』	92K_609	アメリカ 『ア』
92K_117	辛子 (カラシ)	92K_610	髭 (ヒゲ)
92K_118	地図 (チズ) 【絵】	92K_611	息 (イキ)
92K_119	胃 (イ) 【絵】	92K_612	鏡 (カガミ)
92K_120	絵 (エ) 【絵】	92K_613	N T T
92K_121	汗 (アセ)	92K_614	知事 (チジ)
92K_122	鉛筆 (エンピツ) 【絵】	92K_615	テレビ 『ア』
92K_123	インク 【絵】	92K_616	チャンネル 『ア』
92K_201, 203	時, 雀, 地面, 静か, 近づいて, 鈴, 同じ, 始めた	92K_617	辛子 (カラシ)
		92K_618	地図 (チズ)
92K_311~314	「西瓜は安い」	92K_619	紙クズ (カミクズ)
92K_321~324	「ジェット機の窓」	92K_620	宝クジ (タカラクジ)
92K_331~334	「駅の北側」	92K_621	時間 (ジカン)
92K_341~344	「猫に鈴」	92K_622	図鑑 (ズカン)
92K_351~354	「アメリカで髭」	92K_623	鉛筆 (エンピツ)
92K_361~364	「曇らぬ鏡」	92K_624	インク
92K_371~374	「N T T 社長」	92K_625	胃 (イ)
92K_381~384	「テレビからチャンネル」	92K_626	絵 (エ)
92K_391~394	「白い辛子」	92K_627	汗 (アセ)
92K_401	「どこへ行くのか」	92K_628	癖 (クセ)
92K_402	「学校へ行く」	92K_629	風邪 (カゼ)
92K_403	「行くから」	92K_630	小銭 (コゼニ)



検索ツールの QID 欄には表 2 に示した QID の他に「91K\_201\_1」「91K\_201\_2」のように添え字のついた QID も表示されている。この添え字は、同一調査項目（例えば「91K\_201」）が時間を隔てて複数回調査されたことを示している。例えば、話者 ID「079」の調査には QID が「91K\_201\_1」の回答と「91K\_201\_2」の回答とが含まれている。このうち「91K\_201\_1」は調査票の構成どおり、調査開始直後に記録された回答である。しかし、この話者を担当した調査者は、調査の後半で再度この項目を取りあげており、その際の回答が「91K\_201\_2」として記録されている。ちなみにこの話者の調査では、一旦項目「91K\_325」まで調査を終えた後、項目「91K\_201」から「91K\_231」までを再度調査しているので、これらの項目すべてに「\_2」の添え字をもつ回答がある。

## 5. 5 語彙項目

この項目を指定することで、同一の語彙を対象とした調査項目を検索することができる。各語彙項目を指定した時に検索される QID を表 3 に示す。

表 3 語彙項目

語彙項目	QID	QID (92K)	語彙項目	QID	QID (92K)
NTT	307	113, 371～374, 613	時		201, 203, 621
			時間		621
PTA	308		朝寝をしたい	317	
あの人はいつも遅れてくる	241		松（マツ）	215	
いらっしゃい	243		柿（カキ）	214	102, 311～314, 602
お入りください		501	汗（アセ）	204	121, 627
かわいい	322		火曜日（カヨウビ）	217	
くれる	247		鳥（カラス）	228	103, 321～324, 603
この絵はあなたが書いたのか	271		煙突（エントツ）	223	
しみ	303		熊	312	
そうです	270		狐（キツネ）	230	
どこへ	318	401	猫（ネコ）	207	107, 341～344, 607
はずかしい	246		留守番	242	
もう歩けない	244		癖		628
もっと海が静かなら	268		百（ヒャク）	218	
わたくしたち	262		知事（チジ）	224	114, 371～374, 614
アッ、驚いた	245		税務署（ゼイムシヨ）	219	106, 331～334, 606
アメリカ	315	109, 351～354, 609	窓（マド）	209	104, 321～324,
インク		123, 624	糸（イト）	222	
ジェット	309				
チケット	306				

チャンネル	314	116, 381～384, 616	紙クズ		619
			絵	271, 302	120, 626
ツララ	248		胃	301	119, 625
テレビ	313, 325	115, 381～384, 615	背中（セナカ）	203	
			蛇（ヘビ）	208	
フィルム	311		蜂（ハチ）	205	
フォーク	310		行くから	264	403
ボクシング	251		行くけれども	265	
ミニスカート	253		西瓜（スイカ）	216	101, 311～314, 601
乗車拒否	252				
先生があなたを ほめていた	269		見に行かないか	263	
			起きろ	261	
分りません	316		辛子（カラシ）	229	117, 391～394, 617
勉強しないで困る	267				
口（クチ）	201		近づいて		201, 203
同じ		201, 203	鈴（スズ）	211	108, 201, 203, 341～344, 608
団扇（ウチワ）	231				
図鑑		622	鉛筆		122, 623
地図（チズ）	225	118, 618	鏡	304	112, 361～364, 612
地面		201, 203			
墨（スミ）	227		障子	305	
壊れた		407	雀		201, 203
大きい	321		静か	268	201, 203
始めた		201, 203	面白い	323, 325	
学校へ行く	319	402	面白いテレビやって いるから来てみる	325	
宝クジ		620			
小銭		630	靴（クツ）	213	
島（シマ）	226		風邪		629
帯（オビ）	212		食事をしていた		406
幾ら		502	駅（エキ）	221	105, 331～334, 605
強かったなあ	266	405			
息（イキ）	220	111, 361～364, 611	高くなった	320	404
			髭（ヒゲ）	202	110, 351～354, 610
捨てる		408			
教える	324		鳩（ハト）	206	
旗（ハタ）	210				

## 5. 6 聞き手の指定

特に 92 年調査では、同一の内容を、場面（聞き手）を変えて話した場合に、相手によって言い回しを変えるか否かの調査を行っている。この項目を指定することで、聞き手を限定した検索結果を得ることができる。各条件を指定した時に検索される QID を表 4 に示す。

表4 聞き手の指定

聞き手	QID (91K)	QID (92K)
こども（弟・妹）	261	
尊敬している先生	271	
小学校時代の先生	270	
親しい友達	262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 316, 318, 319	401-1～408-1, 501-5
年配の先生		401-2～408-2
近所の顔見知りのお年寄り		501-1
お医者さん		501-2
東京から来た見知らぬ人		501-3
近所のあまり親しくない人		501-4
近所の顔見知りの男の子		501-6
店員さん（近所）		502-2
店員さん（鶴岡駅前）		502-3
店員さん（山形）		502-4
店員さん（東京）		502-5
気楽に話をする相手		203, 312, 322, 332, 342, 352, 362, 372, 382, 392, 502-1
調査者		313, 323, 333, 343, 353, 363, 373, 383, 393
国勢調査の人		314, 324, 334, 344, 354, 364, 374, 384, 394
（空欄）	上記以外すべて	上記以外すべて

## 5. 7 年齢

検察ツールでは10歳ごとの年代で話者を指定するが、実際のデータとしては1歳刻みの年齢が記録されているので、Excelによる検索では、それを利用することができる。

## 5. 8 出身地など

話者自身、両親、配偶者について出身地などの情報が指定できる。話者自身については、出生地（生まれた土地）、直前地（現在の居住地の直前に住んでいた土地）、生育地（5～15歳の居住経歴の複雑な人の場合、その期間に一番長く居住した土地）、本籍地を質問している。また両親についてはそれぞれの出身地を、配偶者がある場合はその出身地を調査している。

これらの情報は「1 鶴岡市」「2 庄内地方（鶴岡を除く）」「3 東北地方（庄内を除く）」「4 その他」の4カテゴリー（配偶者の出身地については「配偶者なし」も加えた5カテゴリー）に分類した結果を公開している。

検索結果を横方向にスクロールさせると、「出生地」などの情報が、「1」～「4」（配偶者の出身地については「1」～「5」）のコードで表示される。これらの情報は **zokusei91-92.xls** ファイルにも記録されている（2 節参照）。

## 5. 9 複数条件の同時選択

検索条件指定ウィンドウの「話者 ID」「調査員」「聞き手の指定」「QID」「語彙項目」の各項目では、まず1つの条件をクリックし、**Shift** キーを押しながらもう1つの条件をクリックすると、2点に挟まれた条件がすべて選択された状態になる。**Ctrl** キーを押しながらもう1つの条件をクリックした場合は、その2つの条件のみが同時に選択された状態になる。図5は、**Shift** キーを使用して「話者 ID」を「001」～「003」まで選択し、**Ctrl** キーを使用して「語彙項目」で「テレビ」と「フォーク」を選択した時の画面例である。

The screenshot shows the 'TsuruokaDialectSpeechSearch' window. It contains several search criteria sections: 'データベース' (Database) set to 'すべて' (All); '話者ID' (Speaker ID) with a list containing 001, 002, 003, 005, 006, where 001, 002, and 003 are highlighted; '調査員' (Investigator) with a list containing 1, 2, 3, 4, 5; '聞き手の指定' (Listener Specification) with a list containing お医者さん, こども(弟・妹), 国勢調査の人, 尊敬している先生, 小学校時代の先生; 'QID' with a list containing 91K\_201:クチ, 91K\_201\_1:クチ, 91K\_201\_2:クチ, 91K\_202:髪, 91K\_202\_1:髪; '語彙項目' (Vocabulary Item) with a list containing ツララ, テレビ, フィルム, フォーク, ボクシング, where テレビ and フォーク are highlighted; '性別' (Gender) set to 'すべて' (All); '年齢' (Age) with checkboxes for 10代, 20代, 30代, 40代, 50代, 60代; and several '出身地' (Place of Birth) fields for various locations like 鶴岡市, 庄内地方, 東北地方, etc., each with a checkbox. At the bottom, there are buttons for '音声ファイルへのパス設定' (Set path to audio file), '検索' (Search), and '選択解除' (Deselect).

図5 複数条件を同時選択した検索条件指定ウィンドウ

**Shift** キーまたは **Ctrl** キーを使用して複数の条件を選択後にその中の一部の条件を解除したい場合は、**Ctrl** キーを押しながら解除したい条件をクリックすればよい。

検索項目のうち、「話者 ID」と「調査員」、「QID」と「語彙項目」・「聞き手の指定」については対応関係にあるため、同時に選択すると検索結果が得られなくなることが多くなるので注意が必要である。

## 6. その他の情報

検索結果を横にスクロールさせると、回答についての様々な属性情報が表示される。以下ではこれらの属性情報について説明する。これらの情報は本 **DB** の検索ツールでは検索に利用できないが、**Excel** 環境であれば検索条件として利用できる（7 節参照）。

## 6. 1 AID

同一の QID に属する質問に対して、複数の回答があった場合、それらを識別するための ID である。回答の生起順に「A」から始まるアルファベット 1 字が用いられる（回答が 1 回であれば、AID は用いられない）。検索ツールの検索結果表示ウィンドウでは、AID はそれ自体が表示される他に、ResponseID（6.8 節参照）の末尾にも付加されて表示されている。先に掲載した図 4 では 6～9 行および 14～17 行の ResponseID に AID が指定されている。

AID のみが異なるデータは、「回答再生」ボタンで再生すると複数の回答が別々に再生されるが、「再生」ボタンで再生するとすべて同一であることに注意。

## 6. 2 IF と FF

以上の説明からわかるように、本 DB の構成単位（検索の対象となる単位）は回答音声である。回答音声はそれだけが単独で発話されているとは限らず、より大きな発話の一部分として発せられていることが少なくない。検索ツールの「回答再生」ボタンによる音声再生では、前後の文脈を含めずに回答音声だけを再生しているが、その場合、本来は一個の連続体である発話から無理矢理に一部のみを再生することになるので、音声学でいう調音結合の効果を無視することになり、単独の発話とは異なる印象をうけることがある。また、話者の回答音声に調査者など他者の音声重なっていることもめずらしくない。このような問題が存在することを明らかにするために、本 DB では個々の回答音声が生じた音声上の環境について簡単なアノテーションを施している。

図 6 に音声文脈に係るアノテーションの模式図を示す。この図では調査者が 2 回、被験者が 1 回発話をおこなっており、被験者の発話には、調査項目に直接係る音声（すなわち回答音声）の他に前後の発話が含まれている。調査項目「息」に対する回答が「それはイキと言います」であったような場合である。

この図では質問の発話の末端と回答の始端に重なりが生じている。被験者が調査になれて、質問が終わるのを待たずに回答しはじめた場合にこのような重なりが生じる。同じく回答末の端で、被験者の発話にかぶせて調査者が「はいそうです」のような発話（一種のあいづち）をおこなうこともある。この状況もやはり図 6 に示されている。

音声文脈は回答発話の始端の特徴（IF : Initial Feature）と末端の特徴（FF : Final Feature）とにわけてアノテーションを施している。IF としては以下の 2 点に注目する。

- 1) PU: 先行発話
- 2) OL: 発話の重なり

「PU」は preceding utterance の意味である。図 6 のように調査項目「息」の回答に先行する連続音声が発せられていれば、ラベル「PU」を付与する。「OL」は overlap の意味である。調査者の質問の発話が終わるのを待たずに被験者が回答を発音しはじめたり、調査の場にいあわせた第三者の発話が回答に重なったりしていれば、ラベル「OL」を付与する。PU と OL がともに該当する発話に対しては複合ラベル「OL-PU」を付与する。

次に FF としては以下の 3 点に注目する。

- 1) FU: 後続発話
- 2) OL: 発話の重なり
- 3) RI: 上昇イントネーション

「FU」は following utterance の意味である。「イキと言います」のように、回答音声に引き続いて他の音声が発せられている場合にこのラベルを付与する。「OL」は発話の終端で調査者ないし第三者の発話との重なりが生じていた場合に付与するラベルである。「RI」は回答音声の末尾が上昇イントネーションで終わっている場合に付与されるラベルである。上昇調の発話が生じるのは、被験者が回答の適切性に確信をもてないでいる場合に多い。これらの特徴が混在する場合には複合ラベル「FU-OL」「FU-RI」「FU-OL-RI」「OL-RI」を用いる。

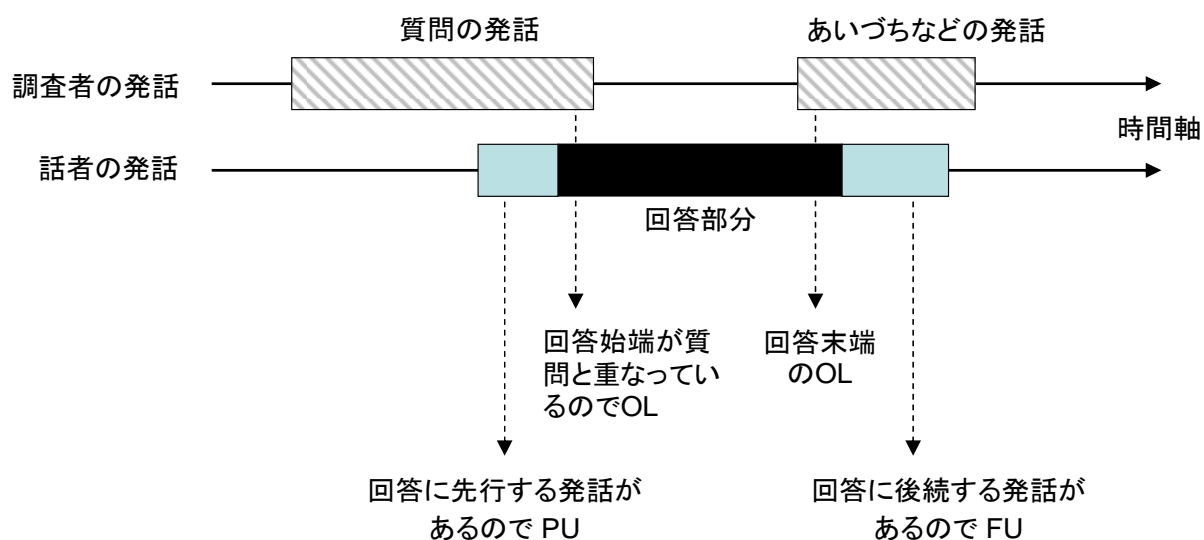


図6 音声文脈のアノテーション

### 6. 3 Qstart, Qend, Astart, Aend

質問音声の開始時刻 (Qstart) と終了時刻 (Qend) 、および回答音声の開始時刻 (Astart) と終了時刻 (Aend) を表す時間情報ラベルである。本 DB では QID に該当する音声 (ひとつの質問に対する、ひとつもしくは複数の回答から構成される連続した音声) が 1 個の音声ファイルに該当するが、そのファイルの先頭を原点として測定した時間である。質問の終端 (Qend) は回答の終端 (Aend) よりも遅い時刻に設定されているので、 $Qstart < Astart < Aend < Qend$  という順序関係が成立する。

## 6. 4 検聴結果

本 DB の作成過程では、91 年調査の結果に対してのみであるが、回答音声の検聴作業を実施した。作業の目的は、時間情報ラベルの誤りを発見して修正すること、ならびに発話内容の方言学的な記述である。この作業には 2 名の作業者があたった。1 名は鶴岡出身で、東京の大学で韓国語を専攻し、現在は都立高校の教師となっている男性（作業時は 30 代前半）。もう 1 名は東京の大学院で方言学を専攻している中国地方出身の共通語話者（作業時は 20 代後半）の女性である。この作業結果もデータとして公開する。以降、6.7 節まではこの作業結果に関する項目であるので、91 年調査のみが対象となることに注意されたい。

Result\_D\_分節音, Result\_D\_アクセント, DOF\_D, Comment\_D は、鶴岡市出身者による検聴結果であり、Result\_Y\_分節音, Result\_Y\_アクセント, DOF\_Y, Comment\_Y が共通語話者による検聴結果である。以下では Result\_D\_分節音, Result\_D\_アクセント, DOF\_D, Comment\_D について説明するが、Result\_Y\_分節音, Result\_Y\_アクセント, DOF\_Y, Comment\_Y についても同様である。

### A. 調査票に従った分類



鶴岡調査の調査票では、大部分の項目について、方言形と共通語形があらかじめ音声記号等で記入されている。調査者はそのうちいずれかを選択するのだが、回答がいずれにも該当しない場合は、これもあらかじめ用意されている空欄に音声記号ないしカタカナで音声を転記する。典型的な調査票の回答欄を以下に示す。

201	【絵】口（ <u>クチ</u> ）	1. tʃ	2. z	9. [                      ]
-----	-------------------	-------	------	-----------------------------

左から順に、調査項目が 201 であること、被験者に示す絵があることが示されており、続いて共通語形とその読みが漢字とカタカナで示されている。カタカナ表記では、この項目において注目すべき箇所（本例では母音間のタ行子音の有声化）に下線が引かれている。

その後ろに記入されているのが選択肢である。1 は共通語化した子音（無声）、2 は方言形、そして 9 が音声転記用の空欄である。Result\_D\_分節音に記録されているのはこの数字である。

以下の例のように、分節音の特徴とアクセントの特徴の両方について回答を選択することが要求されている項目もある（項目 [203]、[207]、[210]、[228]、[231]）。これらの項目については、分節特徴に対する回答を Result\_D\_分節音に、そしてアクセント特徴に関する回答を Result\_D\_アクセントに記録している。調査票に記入された数字の意味を知るためには、DVD Vol.1 のルートフォルダに調査票 91.pdf として保存されている調査票を参照すること。

203	【絵】背中（ <u>セナカ</u> ）	1. s	2. <sup>˙</sup> s	9. [                      ]
		1. 	2. 	9. [                      ]

調査票で選択肢 9 に分類されると判断された回答音声については、調査票の空欄に記入すべき語形が、Comment\_D に記入される。例えば項目 202「髭」の調査票は以下のものであり、「ヒ」における子音の唇音化が調査の焦点となっている。

202 【絵】髭（ヒゲ）	1. ɸ	2. F	9. [                      ]
--------------	------	------	-----------------------------

この項目において「ɸ」でも「F」でもなく、「s」が発音されることがある。その場合、Result\_D\_分節音には数字「9」が記録され、Comment\_D に「s」が記入される。

## B 調査票にない分類

Result\_D\_分節音には「99」ないし「90」という数字が記録されていることがある。これらは調査票にはない選択肢であり、今回、検聴作業にあたって導入したものである。

「99」は調査票が狙っている語（ないし表現）に該当しない回答がえられたことを意味している。内容は様々であるが、いくつかの類型に分けて示すと以下のようである。

- (1) 「誤答」： 調査者が求めている回答とは異なる見当違いの回答。「誤答」扱いとなる例としては、「ハト」を尋ねる項目 [206] において「トリ」という回答が得られた場合や、共通語形「高く」に相当する語形を尋ねる項目 [320] において終止形「高い」に相当する語形が回答された場合などが挙げられる。検聴作業において「誤答」と判断した回答のうち主要なものを付録 2 に示した。
- (2) 「質問の反復」： 調査者の質問に対し被検者が問い返しているような発話や、「(共通語の) ○○は、(方言では) △△って言う」という回答が得られた場合の「○○」のことである。「質問の反復」と認定した回答は 279 件あり、Note 欄（6.7 節参照）にその旨が記入されている。
- (3) 「言いよどみ」： 被検者が回答形を言い誤り、途中で言いさしたような発話。「言いよどみ」に認定された回答は 8 件あり、Note 欄にその旨が注記されている。
- (4) 「自分不使用」： 自分自身は使わないと内省された回答形。ただし項目 [323] と [324] では「この辺の言い方では何と言いますか」と質問しているので、自分自身は使わないが鶴岡市で使うと内省された語形は「99」としていない。「自分不使用」の回答は 289 件あり、Introspection 欄（6.7 節参照）にその旨が記入されている。

「90」は「参考回答」、つまり調査票が狙っている回答そのものではないが、参考となる回答が得られたことを意味している。たとえば調査項目 246「はずかしい」で「ハジ カイタ」という回答があった場合、あるいは項目 271「この絵はあなたが書いたのか」で「センセーノ エカ」という回答（調査の焦点である動詞述語がない）があった場合などである。代表例を付録 3 に示した。



## C 空欄および UD

調査項目 [325] に係る **Result\_D\_分節音**（および **Result\_Y\_分節音**）は、すべて空欄となっている。この調査項目では調査票に語形が記載されていないからである（調査票参照）。

これとは別に **Result\_D\_分節音**が「UD」となっている回答が 783 個ある。これらは何らかの理由で、鶴岡市出身の検聴作業者が作業を完了していないケースを、項目 [325] と区別するために付与した記号である。**Result\_Y\_分節音**には 1 件だけ付与されている。

## 6. 5 DOF

調査票に記入できるのは、調査票が調査対象として認知している音声特徴だけである。しかし、実際に回答音声を聴取すると、調査対象の音声特徴は共通語化しているが、それ以外の箇所に方言的な音声特徴が生じている発話が多数ある。本 DB の検聴作業では、そのような方言特徴も発見されたかぎり記録に残している。これを焦点外の方言特徴 (**Dialect features Other than the Focused ones**) と称することにする。本 DB の **DOF\_D**, **DOF\_Y** は 2 名の検聴者による **DOF** の記録である。以下では **DOF\_D** について述べるが **DOF\_Y** についても同様である。

**DOF** が発見された場合、**DOF\_D** が「1」となり、その音声特徴が **Comment\_D** に記入される。ただし、もともと焦点があたっている特徴が方言的である場合は **DOF** の対象としていないことに注意。**DOF** として実際に記録された特徴のリストを付録 4 として示す。付録 4 で用いられている表記法については付録 5 参照のこと。

## 6. 6 コメント

**Comment\_D** には、回答についての検聴作業者のコメントが種々記入されている。主に以下の場合である。

- (1) 選択肢に挙げられた語形を代表形とみなすとき、その変異形と判断できるもの
- (2) 調査票の選択肢「9」に該当するもの
- (3) 参考回答に該当するもの（6.4 節 B 参照）
- (4) 音声に関する注釈（母音の無声化と「キ」の子音の歯擦音化）

コメントで用いられている特殊な表記については付録 5 で解説している。

## 6. 7 Note と Introspection

**Note** には検聴作業者が様々なメモを記入しており、それをそのまま公開している。頻度が高いのは「雑音」（2077 回）、「質問の反復」（279 回）、「音声不明瞭」（28 回）の 3 種類である。「雑音」は音声に雑音が重なっている聞きとりにくいことを、「音声不明瞭」は話者の発音そのものが不明瞭で聞きとりにくいことを意味している。「質問の反復」については 6.4 節 B で説明した。本 DB に収録された音声の品質については 8 節で触れる。

調査中に、回答の語形その他について話者の内省が得られることがある。それを記録したのが **introspection** である。頻度が高い情報に「自分不使用」（289 回）と「昔使用」（38 回）がある。

## 6. 8 ResponseID

最後に検索結果表示ウィンドウの左端に表示されている **ReponseID** について解説する。これは本 DB の構成単位となっている回答を一意に識別するための ID であり、12 個以上の半角文字列で構成されている。検索結果表示ウィンドウの初期設定では、**ResponseID** のセル長が短く ID の右端が表示されないが、セルの右端をマウスでドラッグすれば文字列全体が表示されるようになる（図 4 はドラッグ後の状態を示している）。**ResponseID** は以下の規則で構成されている。

- 1) ID は「91」か「92」で始まる。
- 2) 上記 1) の後ろにアンダースコアを介して数字 3 桁の話者 ID とアルファベット「K」が続く。
- 3) 上記 2) の後ろにアンダースコアを介して 3 桁ないし 5 桁の QID が続く（5 桁となるのはアンダースコアを介して複数回調査の添え字が付く場合。5.3 節参照）。
- 4) 上記 3) の後ろには必ずアンダースコアが続く。
- 5) AID が指定されている場合は、4) の後ろに AID が続く。

以上の規則に従って、以下のような **ResponseID** が構成される。4 番目の例がもっとも複雑なケースである。

91_002K_202_	(話者 002 の調査項目 91K_202 への回答)
91_005K_221_2_	(話者 005 の調査項目 91K_221 の 2 回目の質問への回答)
91_005K_247_B	(話者 005 の調査項目 91K_247 への二つめの回答)
91_011K_262_2_C	(話者 011 の調査項目 91K_262 の 2 回目の質問への三つめの回答)
92_030K_101_	(話者 030 の調査項目 92K_101 への回答)

## 7. Excel を用いた検索

既に述べたように、本 DB 付属の検索ツールでは、6 節で説明した種々の属性情報を検索条件として利用することができない。これらの条件を検索に利用するためには、本 DB のデータを一般の RDB ソフトや表計算ソフトにエクスポートして利用すればよい。ここでは代表的な表計算ソフトであるマイクロソフト社の Excel (Excel2003-2007) を利用した検索方法を解説する。

DVD Vol.1 のルートフォルダに **tsuruoka91-92K.xls** という Excel のデータファイルが保存されている。このファイルには本文書の 5 節および 6 節で説明した各種情報がすべて記録されている。同じ場所に保存されている **tsuruoka91-92K.dat** はカンマ区切り形式のテキストファイルである。Excel 以外のソフトで本 DB のデータを利用したい場合は、このファイルを利用するのが手軽である。

### 7. 1 セキュリティレベルの変更

**tsuruoka91-92K.xls** をダブルクリックすると、Excel が起動されるが、Excel2007 では起動後、メニューバーの下に「セキュリティの警告」というメッセージが表示されることがある。これは

tsuruoka91-92K.xls に音声再生用のマクロ (VBA) プログラムが含まれているために生じる問題である。Excel のマクロを悪用してシステムに障害を引き起こすウイルスがあるので、標準ではマクロが利用できないように設定されており、Excel2007 は通常（デジタル署名が施されていないかぎり）すべてのマクロを警告なしに無効化してしまう。この機能を一時停止させてマクロを利用するためには、tsuruoka91-92K.xls を開いた後に、「セキュリティの警告」バーの「オプション」ボタン（図7の楕円参照）をクリックし、表示されるウィンドウにて「このコンテンツを有効にする」のラジオボタンを選択し「OK」をクリックすればよい。もしくは、一旦 Excel2007 を起動し、「MicrosoftOffice ボタン」（Excel2007 の左上隅に表示される丸いボタン、図7の破線の円参照）をクリックして、「Excel のオプション」>「セキュリティセンター」>「セキュリティセンターの設定」とクリックして、「マクロの設定」欄で「すべてのマクロを有効にする」を選択して「OK」をクリックし、その後に再度 tsuruoka91-92K.xls を開けば、マクロが利用可能になっている。

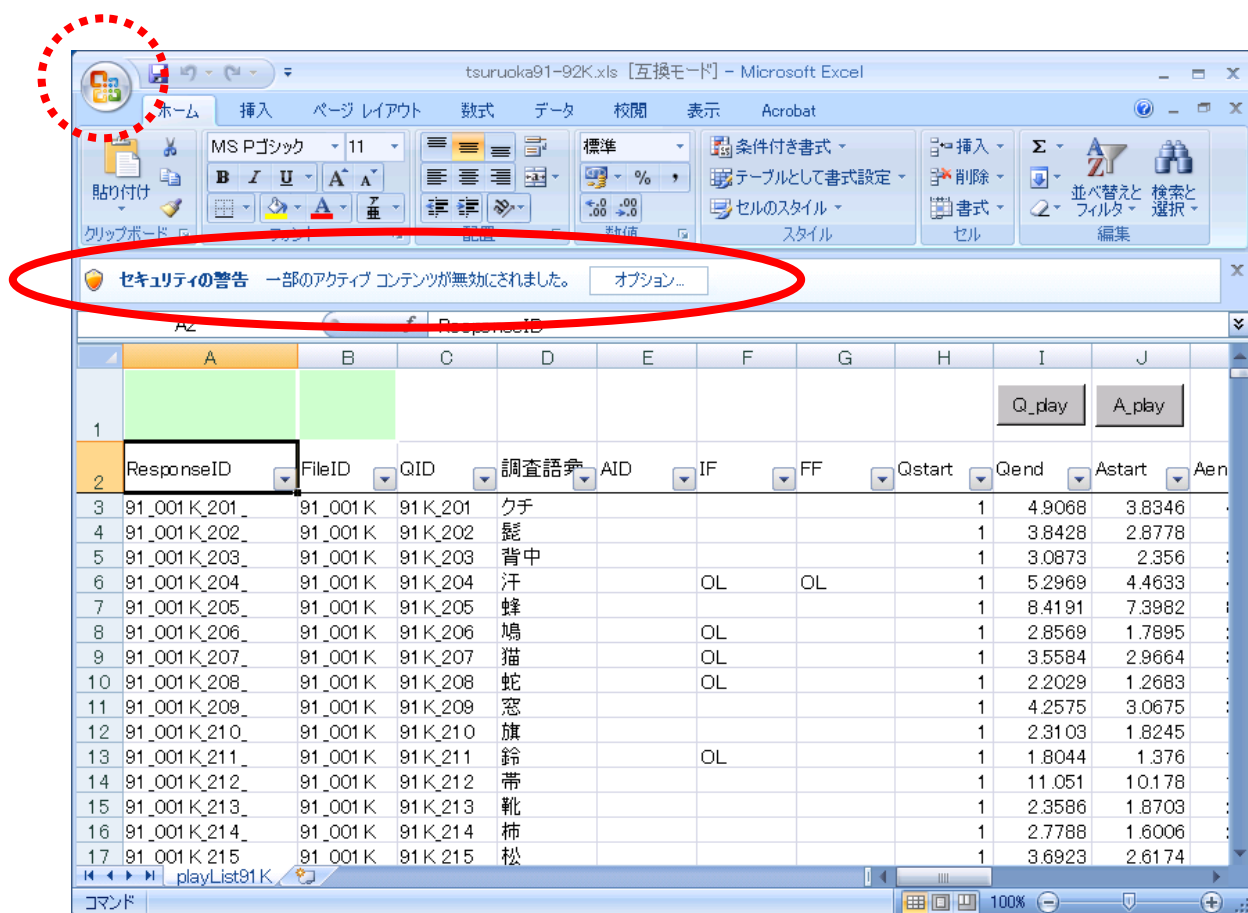


図7 tsuruoka91-92K.xls を Excel2007 で開いたところ

以上は Excel2007 を利用している場合である。Excel2003 を利用している場合は対処法が異なる。Excel2003 では起動中に、「マクロが使用できません。セキュリティレベルが高（最高）に設定されています」というメッセージが表示されることがある。この問題を解決するためには、メッセージが表示されているダイアログボックスで「OK」をクリックして Excel を起動させた後に、Excel のメニューで、「ツール」>「オプション」>「セキュリティ」>「マクロセキュリティ」とクリックして、セキュリティレベルを設定するためのダイアログボックスを開き、セキュリティレベルを「中」に設定する。その状態でファイルを保存して Excel を終了してから、再度ファイルを開くと、今度は、起動の途中でダイアログボックスが開いて「tsuruoka91-92K.xls はマクロを含んでいます」という警告が表示されるので、ダイアログボックスで「マクロを有効にする」を選択すれば、マクロが利用できるようになる。なお、上述のダイアログボックスは 2 回表示されるが、これは tsuruoka91-92K.xls にマクロが 2 個登録されているからであり、バグではない。

なお、ここで問題になっているマクロは、Excel の環境から検索された音声を再生するためのマクロプログラムである。この機能を必要としないのであれば、セキュリティレベルを変更する必要はない。また、tsuruoka91-92K.xls を利用し終えたら、同様の手順でマクロの設定もしくはセキュリティレベルを元に戻しておくことを推奨する。

## 7. 2 フィルターによる検索

tsuruoka91-92K.xls を開くと図 7 のような画面が表示される。2 行目に種々の属性の名称であり、3 行目以下にデータが並んでいる。初期状態では 57725 件のデータすべてが表示されている。このデータの中から目的のデータを検索するための、もっとも簡単な方法は「フィルター」を利用する方法である。

tsuruoka91-92K.xls の 2 行目の各セルの右端には、下向きの矢印が表示されている。これがフィルターである。図 8 に QID の矢印をクリックしてフィルターを開いた状態を示す。この状態で例えば「91K\_205」を選択すると、QID が 91K\_205 の音声（503 件）だけが表示される。

いろいろなフィルターを同時に適用することもできる。上述の状態画面を右にスクロールし、性別のフィルターを「2」に設定すれば QID が 91K\_205 で話者が女性のデータ（288 件）だけが選択される。フィルターを適用すると、画面の左下に、「\*\*\*\*レコード中 XXX 個が見つかりました」というメッセージが表示されるので、そのフィルターによって選択されたデータの件数を知ることができる。

フィルターはひとつの値を選択するだけでなく、範囲を指定することもできる。年齢が 60 以上の話者による音声を選択するためには、年齢のフィルターを開いて「テキストフィルタ」>「ユーザー設定フィルタ」の順に選択する（Excel2003 の場合は「（オプション...）」を選択する）。そうすると図 9 のダイアログボックスが開くので、そこに示されているように条件を設定する。

この図からわかるように、オプションには AND（論理積）と OR（論理和）を用いて二つの条件を指定できる。例えば「40 以上」and「60 以下」のようにである。

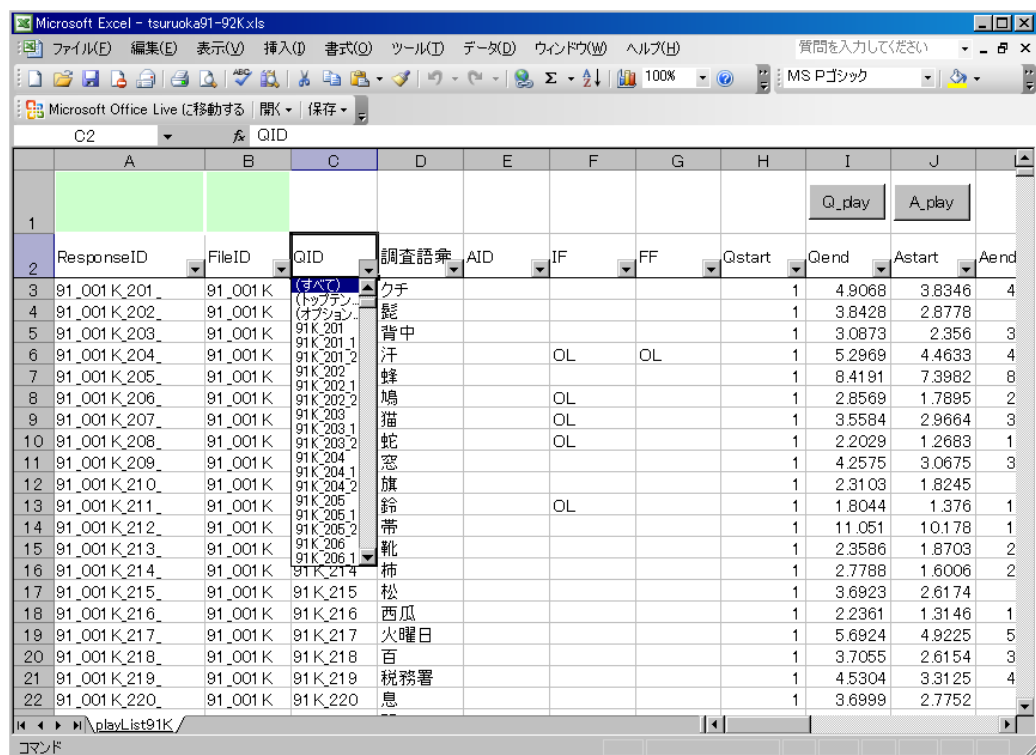
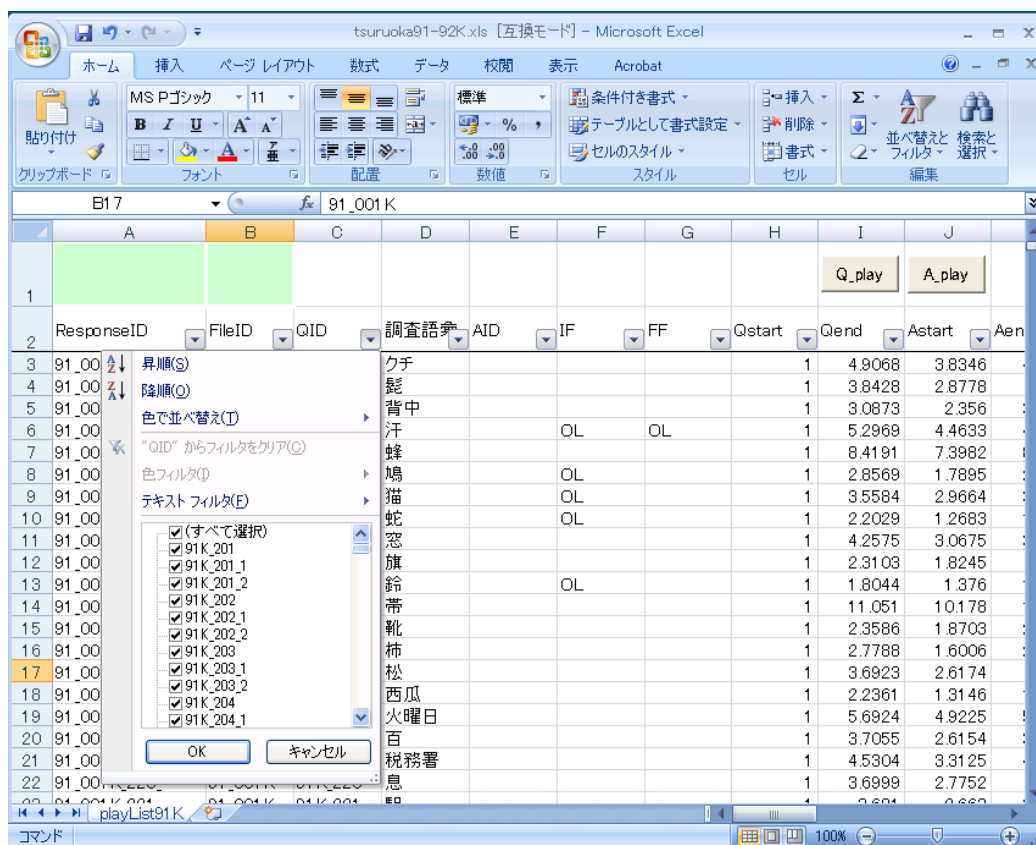


図8 QID のフィルターを開いたところ  
(上は Excel2007,下は Excel2003 の画面)

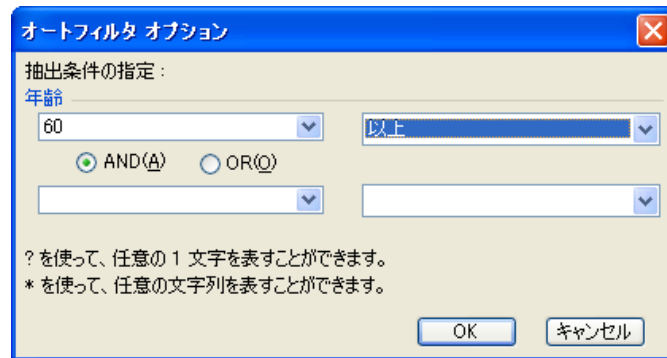


図9 フィルターのオプション指定画面

フィルターによる検索結果を元に戻すには、条件を指定したフィルターで「(すべて選択)」(Excel2003 の場合は「(すべて)」) を再度指定すればよい。

### 7. 3 音声の再生

Excel の環境で検索結果の音声を再生する方法を説明する。この機能を利用するためには、以下の条件が必要である。

- 1) 利用している PC が音声を再生できること。
- 2) 図2に示した標準的フォルダ構成となっていること（非標準的なフォルダ構成での音声再生については下記参照）。
- 3) Excel のマクロ (VBA) が利用可能になっていること（7.1 節参照）。

音声を再生したいデータが表示されている行のいずれかのセルにカーソルを置き、その状態でシート上部（第1行）の「A\_Play」ボタンをクリックすると回答音声、「Q\_Play」ボタンをクリックすると質問から回答までの音声が、それぞれ再生される。またキーボードで **Ctrl+p** (**Ctrl** キーを押しながら **p** を押す) の操作を行うと、回答音声区間を前後にそれぞれ 0.5 秒延長した音声区間が再生される。

Excel 環境での音声再生にあたっては以下の点に注意すること。

- 1) 本 DB 付属検索ツールとは違って複数行を連続再生することはできない
- 2) 一旦再生されはじめた音声は途中で中止できない
- 3) 音声データが表示されていない行（第1行など）にカーソルが置かれた状態で音声を再生するとエラーになる。
- 4) **tsuruoka91-92K.xls** シートに列を挿入ないし削除して **Qstart**, **Qend**, **Astart**, **Aend** 列の位置が変化すると音声再生が不可能になる（列を挿入する場合は **Aend** よりも右側に追加すればよい）。

図2に示された標準的なフォルダ構成とはちがったフォルダ構成でも音声再生機能を利用することができる。その場合、ExcelシートのA1セルに音声ファイルが保存されているフォルダの位置（パス）を、またB1セルに音声再生プログラム（playwav.exe）が保存されているフォルダの位置をそれぞれ指定する。例えばEドライブに図2と同じフォルダ構造でデータとプログラムが保存されているのであれば、A1セルに「E:\TsuruokaDB\wav」、B1セルに「E:\TsuruokaDB\resource」と記入する。これらのパスは絶対位置で指定し、文字列の最後に必ず記号「¥」をつけること。

音声再生用マクロは、A1, B1セルに文字列が記入されていると、それらをパスの指定と解釈するので、パスを指定するとき以外はこれらのセルに何も記入してはならない。

なお、音声ファイルのフォルダは、その位置はどこにあってもよいが、必ず図2のwavフォルダ以下と同じ階層構造を保持していなければならない。つまり「wav」フォルダの直下に「91\_001K」から「92\_498K」までが並置されている構造である。フォルダや音声ファイルの名称を変更すると音声は再生できなくなる。

## 8. 音声の録音と保存について

本DBに収録されているのは1991年度および1992年度に鶴岡市で実施された面接調査の音声である。録音に使用された機材は統一されておらず、様々なテープレコーダーが利用されていた。記録は残されていないが、すべてカセットテープへのアナログ録音であった。マイクロホンについての記録も残されていない。外部マイクロホンを利用した録音もあるが、テープレコーダー内臓のマイクロホンが利用されていることも多い。

また録音環境も様々である。被験者の自宅の応接間などで比較的に関静な環境で録音された音声がある一方、稼働中の木工場内で録音された音声もある。本DBでは録音状態の良否は問わず、残されているすべての録音を編纂対象とした。録音状況が劣悪な場合、特に回答部分だけを前後の文脈から切り離して再生すると、発話内容の聞きとりが困難なこともあるが、本DBにはそのような音声も収録されている。

アナログカセットテープに録音された音声は、調査終了後、長期保存のためにDATにダビングされた。サンプリング精度は48kHz, 16bitのPCMである。本DBに収録されているのは、DATに記録された音声信号をさらに16kHz, 16bitにダウンサンプリングした信号である。サンプリング方式はPCMであり、情報圧縮はおこなっていない。ファイル形式はMS-RIFF形式（WAVファイル）である。

なおアナログ録音の一部にはステレオ録音されたものがあつたが、その場合は、話者（被験者）の音が鮮明に録音されている方のチャンネルを選んで音声ファイルを作成した。

## 9. 本DBの公開形式

本DBの素材となったアナログ録音テープには面接調査全体が収録されている。質問と回答以外にいわゆる雑談の発話も録音されており、それが方言研究の貴重な資料となると思われる。そ

ここで、当初は被験者から音声の公開について許諾を得たうえで雑談を含む音声全体を公開することを企画した。しかし、実際に連絡をとって見たところ、本人にも家族にも連絡のとれない被験者が過半に達することが判明したので、当初の企画を変更して現在の公開形式を採用することにした（いうまでもなくその原因は調査後 10 年以上が経過していたことにある）。

なお、連絡のついた被験者のうち音声データの公開を許諾していただけなかった方が 1 名あったので、その方のデータは本 DB の対象外とした。また録音の質が非常に低かったために除外したデータがある。

## 謝辞

本 DB 開発費の一部は平成 16,17 年度日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「地域言語の共通語化 40 年経年調査データベース」（課題番号 168042 研究代表者：前川喜久雄）に拠っている。また本 DB の対象となった鶴岡市での社会言語学的調査は、文部省科学研究費総合研究（A）「地域社会の言語生活—鶴岡市における戦後の変化—」（課題番号 03301060 研究代表者：江川清）によって実施された。

本 DB として鶴岡調査の音声を公開することに同意された科研費研究代表者の江川清氏に感謝する。また音声の公開を承諾していただいた調査者の方々に感謝する。

国立国語研究所の米田正人、磯部よし子、尾崎喜光は科研費（研究成果公開促進費）分担者として情報の提供にあたった。

本 DB の検聴作業は梁井久江（東京都立大学大学院、当時）と伊達丈浩（都立足立新田高校、当時）の二人によって行われた。梁井は検聴作業について詳細なドキュメントを作成した。その内容は本マニュアルの 6 節の一部と付録 2-5 に反映されている。記して特別に感謝する。

## ソフトウェアについての付記

本 DB の検索ツールは山川仁子、大須賀智子、有本泰子が国立情報学研究所音声資源コンソーシアムの業務として板橋秀一教授のもとで開発した。Excel 環境での音声再生で利用する playwav.exe は籠宮隆之が開発した。Excel 環境から playwav.exe を起動するためのマクロは前川喜久雄が開発し、有本泰子が改良した。

## 参考文献

国立国語研究所 (2007) 『地域社会の言語生活—鶴岡における 20 年間隔 3 回の継続調査』国立国語研究所。



付録1 話者 ID 一覧

001	002	003	005	006	007*	008*	009	010	011
012*	013*	014	015	018*	019	020	021	023	025
026	027	028	030*	031*	032	034	035	036*	039
040	041*	042	044*	046*	047	048	050*	052	053*
054	055*	056	057	058	059	060	061	062	063
064	065	067	068	069	070	071	072	073	074
075*	076	077	078	079*	080	081	082	083	084*
085	086	087	088	089	090	091	092	093	094
095	097	098	099	100	104	106	107	108	109
110	112	113	114*	115	116	117*	118	120*	122
124	125	126	129*	131	132*	133	136	137	138
139	140	142*	143	144	145	147*	150	151	152*
154	155	156	158	159	161	162	163	164	165
166	169	170	171	172	173	174	175	177	178
181	182	183	184	185*	186	187*	189	190	191
192	193	194*	195	196	197	199	200	201	202
203*	204*	205	206	207	208	209*	210	211	213*
214	215	216	217	219	220	222	223*	226	227*
228	230	231	232	233	234	235	236	238	239
240*	241	242	244	246	248	250*	252*	254	255
256	257	258	259	261	262	263	264	265	266
267*	269	272*	273	274	275	276	277	278	279
280	281	282*	283*	284*	285	286	288	289*	290
291	292	293*	294	295*	298	299	300	301	302
303	304	305	306	308	309	310	311	312	314
315*	316	317*	318	321	322	323	324	327	328
329	330	332	333	335	336	338 <sup>注</sup>	339	343*	344
345	346	347	348	349	350	351*	353	354	355
356	357	358	359	362	363	365*	366	367*	368
369	371	373	374	375	376	377	378	379	380
382	383	384	385	386	387	388	389	390*	391*
392	393	394	396	397*	398	399*	401*	402	403
404	405	407	409	410	411	412	414	416	417
418	419	420	421	422	423	424	426	427*	429
430	431	433	434	435*	436*	437	439	440	441
442*	444	445*	446	447	448	449	450*	453	454
455*	456	457	460	461	462	463	464	466	467*
468	470	471	473*	474	475	476	477	478*	479
480	481	482	483	484	485	486	487	488	489
491	492	493	494	496	497	498*	500		

\* 91 年調査の被験者のうち、92 年調査でも被験者となった 87 名を示している。

注 338 の話者については、92 年調査分しかデータが存在しない。

付録2 主な「誤答」(91年調査分のみ)

QID	調査項目	主な「誤答」
91K_201	口(クチ)【絵】	カオ/アコ°/ヒト
91K_202	髭(ヒゲ)【絵】	クチ
91K_203	背中(セナカ)【絵】	ウシロスカ°タ
91K_205	蜂(ハチ)【絵】	ガ/チョー/セミ/カ/ハエ
91K_206	鳩(ハト)【絵】	トリ/コトリ/インコ/カラス/ウク°イス
91K_209	窓(マド)【絵】	ト/ガラスド/カーテン/ドア/ショージ
91K_210	旗(ハタ)【絵】	コッキ
91K_212	帯(オビ)【絵】	キモノ/タイコ/オタイコ
91K_214	柿(カキ)【絵】	トマト
91K_215	松(マツ)【絵】	キ
91K_219	税務署(ゼイムショ)	シヤクショ/クヤクショ/コクゼー/ノーゼーカ/ギンコー
91K_220	息(イキ)	シモ/ユケ°
91K_221	駅(エキ)	ホーム/プラットホーム/テーシャバ/ステーション/テール ュージュ/ヤネ
91K_223	煙突(エントツ)	コージョー/ケムリ
91K_224	知事(チジ)	ケンチョー
91K_225	地図(チズ)	ニホンレット/ニホン/ホンシュ/コクド
91K_226	島(シマ)	コト/ハント/イワ/ガンセキ/フネ
91K_227	墨(スミ)	スズリ/フデ/ボクジュ/スル
91K_228	烏(カラス)	トリ
91K_229	辛子(カラシ)	ワサビ/ミョーガ/シチミ/ミンデンナス/シオ
91K_230	狐(キツネ)	イヌ/オーカミ
91K_231	団扇(ウチワ)	ヘラ
91K_241	「あの人は <u>いつも</u> 遅れてくる」	オクレルト/オソイノー
91K_242	「留守番」	ルス
91K_243	「いらっしやい」	ヨク キタ
91K_244	「 <u>もう</u> 歩けない」	クタビレタ/クタビレテ ダメダ/ツカレタコト/アルガイネ /コーウェ/クルシーナー/マイッタナ
91K_245	「アッ、 <u>驚いた</u> 」	オッ/エッ/キヤー
91K_246	「はずかしい」	アカクナッタノー/ヤンダ オラ/マッカダー/マチガエテシ マッタ/アカ° ッテシマッタ/セキメン
91K_247	「くれる」	カウ/コーカン/モラウ/ユズル/サービス/プレゼントスル/ホ ドコス/メグム/オゴル/ゾーテースル/クレル (共通語)
91K_251	ボクシング	ボクサー
91K_252	乗車拒否	ノセラレナイ/ノセネナンケ/コトワラッタ/ダメダ/スイマ セン

91K_261	「起きろ」	オキネバ ダメダ/ジカン ナッタヨ/ジカン スギマシタ ヨ/ネボースンナヨ
91K_262	「わたくし <u>たち</u> 」	ミンナデ/イッショニ イコー/イコ/イカネカ/イカネーカ/
91K_264	「行く <u>から</u> 」	チョット マッテ/チョット マッテレ/チョット マッテ ノ/マデ
91K_265	「行く <u>けれども</u> 」	イクカラ/イクガラ/イグサゲ/イグハゲ/イガイネ
91K_266	「 <u>強</u> かったなあ」	ツヨイ/ツヨグナッタ/ツエー/ツヨイヒトダッタネー
91K_267	「勉強 <u>しない</u> で困る」	コマッタコト/ベンキョー/ベンキョー シネー/ベンキョ シネーヤガロ/ベンキョー シナイ/ベンキョー シナйка ラ/ベンキョー シネサゲ
91K_268	「もっと海が静か <u>なら</u> 」	シズカダナ/シズカダノ/ネーバ/ナケレバ/ナキ° /オダヤカ
91K_269	「先生が <u>あなたを</u> ほめていた」	ホメッタツケ/ホメテイタツケ/ホメテタツケヨ/ホメテイタ
91K_271	(先生に)「この絵は あなたが <u>書いたのか</u> 」	ハイ ソーデス
91K_301	胃 (イ)	チャー
91K_302	絵 (エ)	シャセー/ガ/ズ/ズカ° /カイカ° /キャンバス/ガヨーシ/ガク /スケッチ/クダモノ/フルーツ/リンコ° ト バナナ/バナ ナ ト リンコ° /セーブツ
91K_303	しみ	ヨコ° レ/ニンジョム
91K_305	障子 (ショウジ)	フスマ/ト/サン/タンス
91K_306	「チケット」	キッテ/プログラム/セーリケン/ショータイケン/マエウリケ ン/トージツケン/ワリビキケン
91K_307	「電電公社」	ジェーアール/コクテツ/ユービンキョク
91K_309	「ジェット機」	ヒコーキ/ミサイル/ジャル/ジャンボ/ヒコーセン/ヘリコプ ター
91K_310	フォーク	ナイフ/スプーン
91K_311	フィルム	カンデンチ/デンチ/バッテリー
91K_312	熊 (クマ)	ネコ
91K_313	テレビ	デンシレンジ/レンジ/テレビジョン
91K_314	チャンネル	スイッチ/ツマミ/ダイヤル
91K_315	アメリカ	セージョーキ/ユーエスエー/イキ° リス
91K_316	「分りません」	シラナイ/シラネ/シリマセン
91K_320	「野菜の値段が <u>高く</u> なった」	ソーデスネー/タカイノー/タツゲノー/タツケノー/タゲケノ ー/アカ° ッター/ネアカ° リ/コージョーシタ
91K_321	「大きい」	チーサイ/チツチャイ
91K_323	「面白い」	オカシー

付録3 参考回答（91年調査分のみ）

期待される回答の類例

QID	調査項目	主な「参考回答」
91K_243	「いらっしやい」	コイ（非丁寧）/ハイレ（非丁寧）/キナサイ（非丁寧）/コバ インデネー/コッチャ コナイ/ハイレバ イッチャヤー/ドーズ コチラエ（動詞述語がない）
91K_246	「はずかしい」	ハジ カイタ
91K_261	「起きろ」	オギッチャー（活用形がわからない）
91K_271	（先生に）「この絵はあなたが <u>書いたのか</u> 」	センセーノ エカ（動詞述語がない）
91K_243	「いらっしやい」	クネへ（共通語の「～ください」に相当する語形だが、「来る」に相当する部分が回答されていない）

期待される回答の一部

QID	調査項目	主な「参考回答」
91K_243	「いらっしやい」	クネへ（共通語の「～ください」に相当する語形だが、「来る」に相当する部分が回答されていない）
91K_269	「先生が <u>あなたを</u> ほめていた」	キミ（対称詞）/オマエ（対称詞）/アナタ（対称詞）/アンタ（対称詞）/オメ（対称詞）/ワー（対称詞）/ドゴ（助詞）*
91K_271	（先生に）「この絵はあなたが <u>書いたのか</u> 」	カカレタ（「書いたのですか」の前半部しか回答されていない）/ナッタンデスカ（「書いたのですか」の後半部しか回答されていない）

\* 調査者が対称詞或いは助詞のみ誘導で質問した場合や話者が質問の意図を十分理解せず対称詞のみを回答した場合。ただし、調査者が回答形として採用している対称詞については、「参考回答」ではなく「回答形」として採用した。「対称詞＋ゼロ形の対格助詞」で、調査者が回答形として採用しているものに以下があった。

オメー：91\_026K、91\_154K、91\_194K、91\_201K、91\_274K、91\_355K、91\_405K

オミヤ：91\_274K

アンタ：91\_001K、91\_063K、91\_099K、91\_120K、91\_217K、91\_294K、91\_401K

アナタ：91\_001K、91\_199K、91\_478K

付録4 焦点外音声特徴 (DOF) の一覧 (91 年調査分のみ)

調査語形の下線は調査票での焦点を、回答形の下線は DOF の対象を、それぞれ示している  
表記については付録5 参照

QID	調査語形	回答形	方言的特徴
91K_201	口 (ク <u>チ</u> )	kuc <u>l</u>	チの母音が中舌的
91K_202	髭 (ヒ <u>ゲ</u> )	hji <u>Ge</u>	ゲの子音が鼻音
91K_203	背中 (セ <u>ナ</u> カ)	sen <u>aga</u>	カの子音が有聲
91K_205	蜂 (ハ <u>チ</u> )	ha <u>cl</u>	チの母音が中舌的
91K_208	蛇 (ヘ <u>ビ</u> )	he~ <u>bi</u>	ビに入り渡り鼻音
91K_211	鈴 (ス <u>ズ</u> )	sl <u>zu</u>	スの母音が中舌的
91K_217	火曜日 (カ <u>ヨ</u> ウビ)	kayo~ <u>bi</u>	ビに入り渡り鼻音
91K_218	百 (ヒ <u>ャ</u> ク)	hy <u>agu</u>	クの子音が有聲
91K_220	息 (イ <u>キ</u> )	ig <u>ji</u>	キの子音が有聲
91K_221	駅 (エ <u>キ</u> )	eg <u>ji</u>	キの子音が有聲
91K_222	糸 (イ <u>ト</u> )	id <u>o</u>	トの子音が有聲
91K_223	煙突 (エ <u>ン</u> トツ)	eNto <u>zu</u> eN <u>do</u> zu	ツの子音が有聲 トの子音が有聲
91K_230	狐 (キ <u>ツ</u> ネ)	kij <u>zune</u>	ツの子音が有聲
91K_231	団扇 (ウ <u>チ</u> ワ)	uz <u>jiwa</u>	チの子音が有聲
91K_241	「いつも遅れてくる」	イズモ、 イ <u>じ</u> モ、 イズ <u>デ</u> モ	語彙は共通語的
91K_244	「もう歩けない」	モー アル <u>ガイ</u> ネ	
91K_245	「アッ、どうした」	オ <u>ん</u> ドロイダ、 ビ <u>ック</u> リ <u>シ</u> タ	語彙は共通語的
91K_246	「はずかしい」	ハズ <u>ガ</u> シ、 ハ <u>ん</u> ズガシ、 ハズカ <u>シッ</u> ケ	語彙は共通語的
91K_247	「与える」	ア <u>ケ</u> °ル	語彙は共通語的
91K_251	「ボクシング」	ボク <u>シ</u> ン <u>ク</u> °	語彙は共通語的
91K_253	「ミニ (スカート)」	みにスカート	語彙は共通語的
91K_261	「早く起きろ」	オ <u>ギ</u> ロ	語彙は共通語的
91K_262	「わたくしたち」	オ <u>レ</u> タチ (女性の回答) ワダ <u>ン</u> ダ <u>ジ</u> (男性) オ <u>レ</u> ダ <u>じ</u> (男性)	語彙は共通語的
91K_263	「見に行かないか」	ミニ <u>イ</u> ガ <u>ネ</u> ガ <u>み</u> に イコー	語彙は共通語的
91K_264	「行くから」	イ <u>グ</u> ガラ イク <u>ガ</u> ラ	語彙は共通語的
91K_265	「行くけれども」	イ <u>グ</u> ケド イ <u>グ</u> ゲド イ <u>グ</u> ケ <u>ン</u> ド	語彙は共通語的

91K_266	「強かったなあ」	ツヨ <u>ガ</u> ッタ ツヨカッタ <u>ノ</u>	語彙は共通語的
91K_267	「勉強しないで」	<u>シ</u> ナイデ <u>シ</u> ナ <u>グ</u> デ <u>シ</u> ナ <u>グ</u> デ	語彙は共通語的
91K_268	「静かなら」	<u>シ</u> ズカナラ <u>しん</u> ズカナラ	語彙は共通語的
91K_303	しみ ( <u>シ</u> ミ)	sjiml	
91K_304	鏡 ( <u>カ</u> ガミ)	kagaml	
91K_305	障子 ( <u>シ</u> ョー <u>ジ</u> )	syoHzl	
91K_316	「分かりません」	ワ <u>ガ</u> ラナイ	語彙は共通語的
91K_317	「朝寝をしたい」	<u>シ</u> タイ <u>シ</u> ダイ	語彙は共通語的
91K_318	「どこへ行くのか」	ド <u>ゴ</u> ニ ド <u>ゴ</u> エ	語彙は共通語的
91K_320	「高くなった」	タカクナッタ <u>ノ</u>	
91K_321	「大きい」	オー <u>キ</u> ー	キ破擦音化により「オークシー」と聞こえる)
91K_322	「かわいい」	カワイー <u>ノ</u>	

## 付録5 Comment 欄で用いられた特殊な表記（91 年調査分のみ）

### 1. はじめに

回答形に対する補足を記した **Comment 欄** (Comment\_D / Comment\_Y) では、(1) 分節音項目におけるアルファベット表記、(2) 語彙・語法項目における仮名表記、(3) アクセント項目における高・低を表す表記の 3 種類の表記法を採用している。以下では、この 3 種類の表記について簡単に説明する。

なお、編纂者の回答形以外に対する注記を記した **Note 欄**、被験者自身の判断・内省を記した **Introspection 欄**では、一般的な現代語仮名遣いである漢字仮名混じり表記を採用している。

### 2. 分節音項目におけるアルファベット表記

分節音項目では、アルファベット表記を採用している。この表記は、平山編 (1997) 記載の「音声一覧表」(p.7) を参考にした上で、鶴岡方言の音素ラベルに音声学的なラベルを一部追加したものとなっている。鶴岡方言において、高年・活躍層と若年層とでは音素目録には決定的な違いはないものの、その実現音声は異なっている可能性が高い（鶴岡方言の音韻については井上 (1994) 参照）。したがって、ここでは、調査項目のねらいに沿っており、また一貫したラベリングが可能な表記となるよう留意している。

#### ○母音ラベル

ラベル	対象
a	ア
i	イ
l	い 中舌性を保持
u	ウ
U	う 中舌性を保持
e	エ 共通語の「エ」及び「狭いエ」
E	エ 「広いエ」
o	オ

#### ○子音ラベル

ラベル	対象
k	カ行子音（軟口蓋無声破裂音）
g	ガ行子音（軟口蓋有声破裂音）
G	いわゆる「ガ行鼻音」（軟口蓋鼻音）：「カ°」、「ク°」、「ケ°」、「コ°」
s	サ行のうち「サ」、「ス」、「セ」、「ソ」の子音（歯茎無声破裂音）
z	ザ行子音（歯茎有声摩擦音ないし破擦音）
t	タ行のうち「タ」、「テ」、「ト」の子音（歯茎無声破裂音）
c	タ行のうち「ツ」の子音（歯茎無声破擦音）

d	ダ行のうち「ダ」、「デ」、「ド」の子音（歯茎有声破裂音）
n	ナ行子音（歯茎鼻音）
h	ハ行のうち「ハ」、「ヘ」、「ホ」の子音（声門無声摩擦音）
F	ハ行のうち「フ」の子音及び「ファ」、「フェ」、「フォ」の子音（両唇無声摩擦音）
b	バ行子音（両唇有声破裂音）
p	パ行子音（両唇無声破裂音）
m	マ行子音（両唇鼻音）
y	ヤ行（拗音）子音（硬口蓋接近音）
r	ラ行子音（歯茎弾き音）
w	ワ行子音（両唇硬口蓋接近音）
kw	カ行の合拗音「クッ」
gw	カ行の合拗音「グッ」
kj	母音イの前で口蓋化した <b>k</b> : 「キ」の子音
gj	母音イの前で口蓋化した <b>g</b> : 「ギ」の子音
Gj	母音イの前で口蓋化した <b>G</b> : 「キ°」の子音
sj	母音イの前で口蓋化した <b>s</b> : 「シ」の子音
zj	母音イの前で口蓋化した <b>z</b> : 「ジ」の子音
cj	母音イの前で口蓋化した <b>c</b> : 「チ」の子音
nj	母音イの前で口蓋化した <b>n</b> : 「ニ」の子音
hj	母音イの前で口蓋化した <b>h</b> : 「ヒ」の子音
ky	カ行拗音の子音
gy	ガ行拗音の子音
Gy	ガ行拗音の子音（鼻音）
sy	サ行拗音の子音
zy	ザ行拗音の子音
cy	タ行拗音「チャ」、「チュ」、「チョ」の子音
dy	ダ行拗音「ヂャ」、「ヂュ」、「ヂョ」の子音
ny	ナ行拗音の子音
hy	ハ行拗音の子音
Fy	「ファ」、「フェ」、「フォ」の子音
by	バ行拗音の子音
py	パ行拗音の子音
my	マ行拗音の子音
ry	ラ行拗音の子音
~b	入りわたり鼻音を伴うバ行の子音 : 「んバ」、「んビ」、「んブ」、「んベ」、「んボ」
~z	入りわたり鼻音を伴うザ行の子音 : 「んザ」、「んジ」、「んズ」、「んゼ」、「んゾ」
~d	入りわたり鼻音を伴うダ行の子音 : 「んダ」、「んデ」、「んド」
N	撥音「ン」
H	長音「ー」
Q	促音「ッ」



- 「e」は「狭いエ」と呼ばれる調音で、D.ジョーンズの基本母音 No.2 にほぼ相当する（井上 1994）。ただし、共通語化により、若年層では共通語の「エ」と同様の発音をする話者が多くなっている。共通語化を捉えるという調査目的に照らせば両者の違いは重要視すべきであるが、今回は特に区別をしなかった。

### 3. 語彙・語法項目における仮名表記

語彙・語法項目では仮名表記を採用している。仮名表記を採用したのは、調査票の選択肢との対応を考え、読みやすさを考慮したためである。ただし、選択肢の表記と完全に一致するものではない。ここでは、中舌性の母音などの音声学的に興味深い分節音を書き表すため、片仮名を主体にしつつ一部平仮名を混ぜた表記を用いることにした。ここでの基本方針は、「実際の発音を仮名で書ける範囲で書き起こすこと」である。実際の音声を仮名表記によってどこまで忠実に表せるのかと言えばそれまでであるが、このデータベースでは生の音声データが付されているため、不審な点はユーザー自らが確認してほしい。

なお、「続く（つづく）」など、現代仮名遣いでは「ヂ」「ヅ」を用いて表記する語であっても、ここでは一律「ジ」「ズ」と表記している。また、助詞の「は」「を」「へ」についても、実際の発音である「ワ」「オ」「エ」で表記している。

以下、仮名表記上特に留意すべき点を列挙しておく。

- 中舌性を保持する「I」「U」を「い」「う」で表し、共通語化により中舌性を失った「i」「u」を「イ」「ウ」で表す。したがって、母音に中舌性を保持する拍「sl」「cl」「zl」「sU」「cU」「zU」「kl」「gl」「nl」「hl」「bl」「ml」「rl」は、仮名表記では「し」「ち」「じ」「す」「つ」「ず」「き」「ぎ」「に」「ひ」「び」「み」「り」で表される。
- 生育地が鶴岡近郊で、言語形成期以降に鶴岡に移住してきた話者には、「す」「つ」「ず」が「し」「ち」「じ」に近く発音され、区別がないことがある（井上 1994）。その場合、「し」「ち」「じ」で表すことにする。
- 広母音の「E」は、分節音項目では可能な限り「e」とは区別するようにしたが、語彙項目では、「E」も「e」も「エ」で表し、区別していない。
- 半母音の「ye」は「イエ」で表す。
- いわゆる「ガ行鼻音」（軟口蓋鼻音）を含む拍は、「カ°」、「キ°」、「ク°」、「ケ°」、「コ°」のように、「°」を付すことによって表す。
- 入りわたり鼻音を伴うザ行・ダ行・バ行の子音「~b」、「~z」、「~d」を含む拍は、「んバ」、「んザ」、「んダ」のように、「ん」を付すことによって表す。
- 合拗音は「クッ」、「グッ」のように表す。
- 撥音「N」は「ん」で表す。

- 長音「H」は「ー」で表す。
- 促音「Q」は「ッ」で表す。

#### 4. アクセント項目における表記

アクセント項目では、高、低をそれぞれ H、L によって表している。

#### 参考文献

井上史雄 (1994) 「鶴岡方言の音韻」 国立国語研究所 (編) 『鶴岡方言の記述的研究－第 3 次鶴岡調査 報告 1』 秀英出版.

平山輝男 (編) (1997) 『山形県のことば』 明治書院.